東日本大震災被災地応援実行委員会たより

轍わだち

2012，7．11　NO34

ゼロに向かっての戦いが続く

福島第一原発から半径３０キロから５０キロに位置する福島県飯舘村の人々は事故以後避難生活を強いられたまま１年４ヶ月が過ぎた。村長の菅野さんは「ゼロからの出発ではない。ゼロに向かって何年も戦っていかねばならない。」と現状の厳しさを語った。福島の原発事故では１６万人もの人々が故郷から離れていった。福島県大熊町が実施したアンケートによれば４割の町民が「町には戻らない」と答えた。戻りたい思いがないはずはない。しかし、放射能で汚染された土地で暮らす恐怖は郷愁より強い。

岩手・宮城・福島被災３県の状況

企業の事情でそこで働く人々の賃金が支払えない時に、国が立て替える制度があります。
全国的にはこの制度を利用する件数が大幅に減少しています。（前年比１６％減）つまり未払い賃金が減る傾向にある中、被災３県では大幅に増加しています。（前年比 50％増）
働く場所が奪われ、働く意欲が奪われた被災者の上にのしかかる苦境は想像を超える苦境なのです。

写真と記事は関係ありません

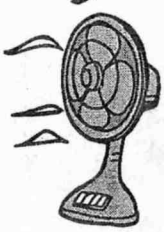
川魚のセシウム最高２６００ベクレム検出

福島県南相馬市の真野川で採取したハゼ科の魚から１キロ当最高２６００ベクレムが検出されたと７月２日環境省が発表しました。ちなみに魚類をふくむ一般食品の国の新基準値は１キロ当たり１００ベクレルですから大幅に上回る数値です。

オリジナルお箸好評追加分もどんどん売れています

体育祭に続き、６月２３日（土）のオープンスクールや保護者懇親会において大勢の方々にお箸を買って頂きました。オープンスクールでは活動の紹介を聞いて、お箸やバンダナを購入される方が多く、５５、５００円の売り上げに実行委員会は大いに励まされました。また、夜の保護者懇親会では保護者会本部役員の方々が各テーブルを周りながらお箸の購入を呼びかけてくださいました。そのおかげで１０３、１００円の売り上げがありました。ご協力本当にありがとうございます。

扇風機50台送ります



ラジカセ50台も！癒しの音楽と一緒に

音楽は凄い力を持っています。悲しいとき、辛いとき、音楽は人の心を安定させてくれます。そこで実行委員会ではハンドベル部と、コーラス部、保護者コーラスと、実行委員の上原さんに依頼して癒しの音楽Ｃ．Ｄを作製しています。

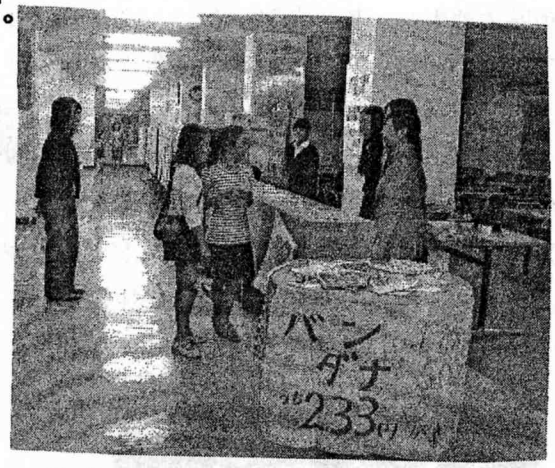
実行委員会の活動紹介

元気な中学１年生が「実行委員会になります」と言って何人も活動に参加してきています。
オープンスクールの展示や、片付けも一生懸命手伝いました。
扇風機を玄関からギャラリーに運び込む作業も中学生が一手に引き受けやってくれました。
「私のできることを、できる範囲でやり続ける」そんな思いと行動が「息の長い支援」につながります。**いつでも実行委員は募集しています。**

委員の人の主な活動

- **毎月震災が起きた１１日の昼休みが定例会議です。この日に、支援の方法を話し合います。**
- **学院の諸行事に合わせて、販売活動を行うので当番であたります。**
- **活動を拡げるために、様々な場所に出向いて活動紹介をします。**
- **支援物資の搬送活動を行います。**

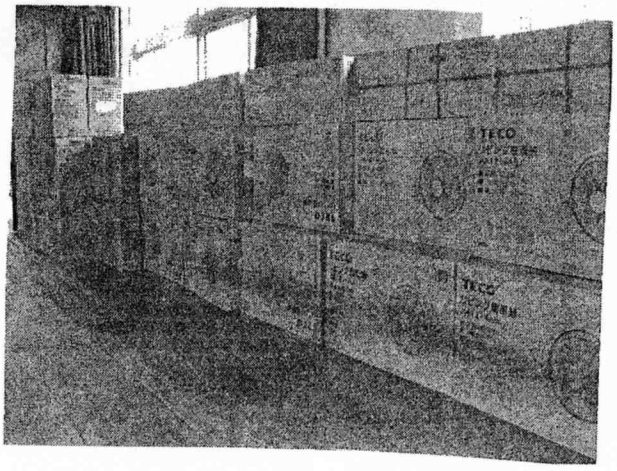
オープンスクールでは



すべての「轍」や、被災地の写真を展示しながらオリジナル商品を販売しました。

ホームステイ先へのお土産はオリジナルお箸

立命館コースの海外研修が７月１９日から始まります。今年も昨年同様に、ホームステイ先へのお土産に、被災地への支援の願いを込めたオリジナル商品を選んで頂きました。東日本大震災の支援は世界中から寄せられています。そのお礼もかねて、活動の様子をお知らせする英文の説明書付きでプレゼントします。立命館コース３年４組のみなさんありがとうございました。



搬送する扇風機